

「第2次川崎市一般廃棄物処理基本計画」(素案) への主な市民意見と市の考え方について

平成16年10月1日から平成17年1月31日まで実施しました市民説明会、ワークショップ、減量指導員との意見交換会、ホームページ等でいただいた計画への主な意見と、今後行政が取り組む方向性及び考え方を記載しています。

「～」 意見・提案のポイント

一般廃棄物処理の現状と課題

ごみ処理に多くの費用がかかっていることをもっと示すべき

【提案内容・理由】

統計として、廃棄物処理事業の全体経費(208億円)と一人あたりの額が記載されているほうがよい。

リサイクルをすればするほど経費がかかることを強調すべき。

回 答

計画素案の見直しの際、ごみを処理するには多額の費用が必要となることを訴える内容へと見直したいと考えています。

市民がごみ処理の問題点について危機感を持つような表現とすべき

【提案内容・理由】

発生抑制ができていないことや最終処分場の残余年数が逼迫しているという現状をもっと訴えかけるべき。

他都市と比較すると最終処分場の残余年数に余裕があるので、危機感が沸いてこない。

減量化によるメリットや、減量しないことによるデメリットをきちんと示すべき。

回 答

計画素案の中では、本市の廃棄物行政が抱える課題を全体的に示しましたが、市民の皆様にとっては逆に論点が見えにくかったのではないかと考えます。

そこで、計画素案の見直しにあたっては、ご指摘の点を踏まえ、本市が抱える廃棄物行政の問題の重大さを訴えかける内容に見直してまいります。

もっと身近な問題を取り上げるべき

【提案内容・理由】

不法投棄やごみ集積所の散乱など、市民がもっと身近な問題から解決しなければならない。

回 答

この計画は、ごみの減量・リサイクルを中心としたものであるため、ご意見にございますような内容についてはあまり詳しく記載していませんでした。

しかしながら、市民の皆様にとっては、ごみ集積所の散乱や不法投棄は大変重要な問題であることから、表現方法などについて見直してまいります。

計画の目標(行動計画含む)

もっと市民のやる気を喚起する目標を設定すべき

【提案内容・理由】

100グラムのごみ減量はどうやって取り組むのか、実感が湧いてこない。
市民のやる気を喚起する目標ではない。市民一人一人にインパクトのある目標を提示してほしい。

川崎市を日本1の環境都市にするくらいの高い目標を掲げるべき。

一人一日100グラムの減量目標では全く危機感が湧いてこない(同意見3件)

回 答

ごみの減量化・資源化目標値は、現在計画している施策の効果や人口の増減予測等をもとに算出しています。したがって、目標値はその算出根拠とかけ離れた数値を設定できませんが、市民の皆様にとって、出来る限りごみの減量・リサイクルへの取組意欲を喚起するものへと見直してまいります。

もっと市民にとって理解しやすい目標を設定すべき

【提案内容・理由】

見やすさや分かりやすさを考えてつくって欲しい(同意見2件)

なぜ100グラム減量しなければならないのかという理由を明確にすべき。

回 答

目標値の表現方法などについては、市民の皆様からいただいたご意見を参考にしながら見直してまいります。

焼却率や最終処分場の延命化など様々目標を検討すべき

【提案内容・理由】

焼却率の低減目標も設定すべき。
最終処分場の延命化やCO₂の削減目標なども示してはどうか。
一般家庭や事業活動などの分野ごとに、ごみを何パーセント削減するといった具体的な数値を設定した方が取り組む意欲が高まるのではないかと思う。

回 答

目標の示し方は多種多様であると考えております。
目標の見直しについては、市民の皆様からいただいたご意見を参考にしながら行いたいと考えております。

基本施策

1 循環型社会へのビジョンを共有し「環境市民」となる

(1) 環境学習・環境教育の促進

「ごみ減量学習プラン」の推進

環境学習・環境教育は積極的に推進すべき

【提案内容・理由】

橋リサイクルコミュニティセンターや生活環境学習室をもっと活用し、また新たな場所を設けるべきである。
清掃車に子どもを乗せるなどの体験学習を実施してはどうか。
小学校の総合学習への出張講座なども力を入れてもらいたい。
教育委員会との連携を図るべき（教育関係の計画にも明確に記載されるべき）
（同意見2件）
町内会や自治会の会合などに積極的に参加し、直接ごみの減量・リサイクルの大切さを伝えることが大変重要。

回 答

計画の主旨に概ね賛同いただいたものと考えております。今後はこの計画の実現に向け、関係機関と連携を図りながら、市民の皆様の環境に対する意識の高揚に努めてまいります。

「ごみ減量に向けた川崎ルール（仮称）の創設 ルールの策定は概ね賛成

【提案内容・理由】

ごみの分別のガイドラインを作成して市民に配布すること。
リユースカップの活用など、イベントにおけるリサイクル活動を推進すること。
転入・転出が多い地域ではローカルルールは作るべきではない。

回 答

計画の主旨に概ね賛同いただいたものと考えておりますが、ルールの内容等については、今後市民の皆様と意見交換を行いながら検討してまいります。

（２）情報の共有化

もっと市民にごみに関する情報を提供すべき

【提案内容・理由】

スプレー缶や蛍光灯など有害廃棄物の問題を含め、いろいろな課題を明らかにすべき。
ごみの出し方がわからない人が気軽に聞けるシステムが必要。
積極的にごみ問題に関する情報を開示すべき。

回 答

市政だより、川崎市ホームページ、各種リーフレットなど様々な広報媒体を活用し、市民の皆様へごみの減量やリサイクルに関する情報提供をより一層積極的に行ってまいります。

ごみ減量活動の具体的な成果が実感できるような仕組みにすべき

【提案内容・理由】

ごみの分別に大変な手間がかかっているのに、その成果が実感できない。
ごみ減量の成果が処理センターの削減につながるなど、具体的な成果が見えるようにしてほしい。
広報誌やホームページなどに取組事例を紹介したり、定期的に発表することなどが必要ではないか。

回 答

計画の主旨に概ね賛同いただいたものと考えておりますが、今後市民の皆様のご意見を取り入れながら、ごみ減量の成果、資源ごみの収集量などについて、情報提供の仕組みづくりを行ってまいります。

再用品交換情報誌「エコー」の充実 「エコー」は見直すべき

【提案内容・理由】

再用品交換情報誌「エコー」の印刷配付はやめ、インターネットや区役所等の掲示板を活用すべき

回 答

再用品の交換システムについては、他都市の先進事例を参考とし、インターネットでの情報交換、区役所・スーパー等における掲示板を活用することなどにより、活性化に向けた見直しを図ってまいります。

広報誌の充実

【提案内容・理由】

集合住宅などで設定している独自のルールに対応できる「ごみカレンダー」を作成してほしい。

回 答

「くらしとごみのカレンダー」に掲載している項目については、各家庭が共通認識のものごみに関する取扱いをしていただくためのものです。

ご意見にございます一部の地域の独自ルールに対応できる「くらしとごみのカレンダー」の作成については、厳しい市の財政状況を勘案しますと非常に困難な状況です。

(3) 減量・リサイクル活動の活性化

減量指導員制度の充実

廃棄物減量指導員制度の一層の活用・活性化を図るべき

【提案内容・理由】

減量指導員との意見交換や十分な情報提供が必要

減量指導員への教育・研修にもっと力を入れた方がよい。(同意見2件)

活動報告書の提出の義務化などを検討すべき。

減量指導員は地域に認識されておらず、いくら集積所へのごみ排出を注意しても効果がない。

減量指導員の意見が行政に全く反映されていないことが問題。もっと意見を取り入れるべき。

減量指導員とボランティアが連携し、町会を超えたごみ減量組織をつくるべき。

減量指導員の育成にもっと力を入れるべき。

回 答

ごみ減量の普及啓発、リサイクル活動の推進、ごみ排出方法の指導などを行う「廃棄物減量指導員」の活動が、地域住民に周知されていないことからトラブルが生じてしまっていると伺っております。

今後については、地域住民の方々に廃棄物減量指導員の活動を認知していただけるよう、より一層の広報に努めるとともに、的確かつ迅速な情報の提供や講習会等への参加を促進することにより、廃棄物減量指導員制度の活性化を図ってまいりたいと考えております。

フリーマーケットの開催

市民がフリーマーケットを開催できる場を確保すべき

【提案内容・理由】

公園など、住まいの近くでフリーマーケットが開催できない。

回 答

公園等を使用してフリーマーケットを開催することは可能ですが、公共用地のために公園管理者の許可が必要となります。また、使用に際し制限などもありますので、所管する公園事務所にお問い合わせ下さい。

(4) 市民参加の促進

P T Aにもごみ問題への参加を呼びかけるべき

【提案内容・理由】

小学校でごみ読本を配布しているため、P T Aなど生徒の父兄はごみ問題に関心が高い。

P T Aなどにアプローチをもっと進めて参加を促進すべきだと思う。

回 答

環境問題に高い関心のある父兄の方々がたくさん集まりますP T Aに対し、ごみ減量・リサイクル活動への参加を呼びかけることは、ごみの減量化に向けた取組の活性化を図る上で大変有効ではないかと考えております。

今後、そのようなアプローチについて、関係機関と連携を図りながら実施してまいります。

市民が参加しやすいシステムをつくるべき

【提案内容・理由】

女性の視点をもっと取り入れ、家庭の主婦の参加を促すべき。

廃棄物に限定しないで、環境全般を対象にした市民参加にしたほうが市民は参加しやすい

市民参加の枠組みに関して、新たな視点をはっきり打ち出すべき

回 答

ご意見にありますように、市民参加を促進するためには、多くの市民の興味が湧くようなメニューの設定が必要であると考えております。

そのための手法の一つとして、廃棄物部門に限定せず、地球環境あるいは街づくりなどを含めた枠組みが必要となりますことから、他の関係機関との連携を図りながら、市民参加の促進に努めてまいります。

「ごみ減量ボランティア制度（仮称）」の創設

「廃棄物減量指導員」や「ごみ減量市民会議」との連携や整合性を図るべき

【提案内容・理由】

活動資金の提供など多くの市民が参加し、また責任を持って取り組むようなシステムとすべき

「ごみ減量ボランティア制度」と「ごみ減量推進市民会議」は連携を図って取り組むべき

「ごみ減量ボランティア制度」は、定年を過ぎて社会に貢献したいと思っているシニアの方々を活用すべき

ボランティア制度など、市民の自発的な取組をもっと大切にすべき

「ごみ減量ボランティア制度」と「廃棄物減量指導員」はどちらか一方にすべき

「廃棄物減量指導員」との整合性を図るべき

制度の新設ありきではなく、現行の減量指導員制度の拡充を図るべき。

回答

制度自体について、多くの市民から賛否両論をいただきました。

今後その設置の必要性等について、改めて検討し直したいと考えております。

「川崎市ごみ減量推進市民会議（仮称）」の設置

市民会議は、区単位とか地域ごとで実施すべき

回答

この市民会議は、今後の本市廃棄物行政における市民参加の中心に位置するものになると考えております。

市民の皆様のご意見にもございます会議の運営手法については、今後慎重に検討してまいります。

2 循環型の処理システムを築く

【ごみの発生を容認しない市場経済の構築】

(1) ごみをつくらない社会を築く

環境に調和した製品の開発の促進

容器包装リサイクル法の見直しを国に働きかけるべき

回答

市民の皆様のご意見にございますように、デポジット制度の導入や拡大生

産者責任の徹底を図るためには、国や業界団体の積極的な取組が大変重要であると考えています。

そこで、様々な機会を通じ、国や業界団体への働きかけを行ってまいりたいと考えております。

店頭回収の拡大に向けた取組

店頭回収の拡大を促進すべき

【提案内容・理由】

ペットボトルなども処理経費のことを広報し、店頭回収への促進を図るべき
資源物はまず店頭回収に出すことを積極的に広報すべき
店頭回収を実施しない店は店舗名を公開すべき

回 答

計画の主旨に概ね賛同いただいたものと考えております。今後も店頭回収実施店舗数の拡大に向け、積極的に取り組んでまいります。

【経済的手法の導入】

家庭系ごみの有料化を検討すべき

【提案内容・理由】

既に家庭系ごみの有料化を実施しているところはたくさんある。川崎市でも参考にして早急に検討してもらいたい。(同意見2)

回 答

家庭系ごみの有料化については、ごみの排出抑制策の一つとして、一部の自治体において実施され、一定の検証がされているところです。また、有料化による消費者及び生産、流通、販売などの関係者におけるごみ減量化に向けた意識啓発効果についても認識しております。

しかしながら、本市といたしましては、ごみ処理を有料化し、市民の皆様にご負担をお願いする前に、まずごみ処理事業の運営をこれまで以上に効率的かつ効果的なもとへと改善することが先決であると考えております。

したがって、今後、こうした課題を率先して取り組んでまいりますとともに、ごみの有料化のあり方についても調査・研究を進めてまいります。

(2) やむを得ず出たごみは資源物とする

【徹底した資源化】

資源集団回収事業の拡大

資源集団回収の拡大を図るべき

【提案内容・理由】

資源集団回収事業は、地域間で収集回数が1～4回と格差がある。

月1回では収集間隔が長すぎ、ストックできずに普通ごみに出されてしまうので回数を増やすようにすべき

市が各地域の状況(品目、業者)を把握すべき。

既の実施されている地域には普及啓発を徹底すべき

未実施の地域にはその実施の働きかけを積極的に行うべき

集団回収の対象物がごみ集積場に出された時、行政は可能な限り収集しないようにすべきだと思う。

古布の回収については、資源化したくてもルートがないので市が実施してほしい。

回 答

資源集団回収事業の拡大に向け、現在、アンケートや現地調査などにより、実施地域の確認作業を進めているところです。この結果を踏まえまして未実施地域については、その実施を住民団体等へ要請をするとともに、近隣住民には事業への参加・協力をお願いしてまいりたいと考えております。

また、実施しているものの普及広報が行き届いていない地域については、今後はより一層の広報等の充実を図ってまいります。

分別排出の徹底

資源物が混入したごみ袋は徹底して回収をやめるべき

回 答

徹底した資源化を行うには、分別排出を徹底することが必要不可欠です。

基本的には、広報媒体等を通じた普及啓発を行っていますが、誤って普通ごみの中に出された資源物については、生活環境作業員がごみ袋に注意書を貼るなどにより収集作業の段階で排出指導を行ってまいります。

容器包装廃棄物の分別の拡大

プラスチックや紙類の分別収集を早期に実施すべき

【提案内容・理由】

「その他プラ」の収集を急がないと大気中に拡散するダイオキシンは防げない。

分別収集が進めばごみの量も少なくなり、焼却炉の延命や大きな焼却炉の建設もいらなくなる。

資源化されていない、あらゆる紙を再生利用する方法を考える。

分別収集の拡大に向けたシミュレーションを実施すべき。

なぜ分別収集をするのかを重点にした教育・広報活動が必要である。

現在の分別収集が何品目行っていて、将来何品目になるのか示した方がよい。

回 答

計画素案にも示しましたとおり、容器包装リサイクル法に基づく「その他プラスチック」や「紙類」の分別リサイクルを進めることは、循環型社会の構築を目指す本市にとりまして大変に重要な取組であると考えております。

特にごみの中で大きな割合をしめる「その他プラスチック」については、リサイクルによる資源の有効活用や、焼却しないことで環境負荷を軽減するなどの効果も大きいことから、できるだけ早くに分別収集を行いたいと考えております。

また、「紙類」につきましては、環境産業との連携を図りながらリサイクルの拡大を図ってまいりたいと考えております。

「かわさき生ごみプラン」の策定

生ごみリサイクルを推進すべき

【提案内容・理由】

生ごみ処理機を利用したい気持ちはあるが、家には庭がなく、処理後の土の処分がわからず導入に踏み切れない

つくった堆肥を回収して有効活用するシステムがあればいいと思う。

市民が関わるごみ減量効果として生ごみへの対策が重要（市民意識を変えることが期待）

共同で堆肥熟成場をつくり、出来た堆肥を公園の花壇で使い、家庭の庭で使うなど生ごみの減量が身近な所でできるのではないかと。

バイオマス・ニッポンの川崎版を考えてほしい。

剪定枝のリサイクルを進めるべき。

回 答

生ごみなどのリサイクル推進については、概ね賛同が得られたものと考えておりますが、その手法等について、大規模な生ごみ処理機の設置、市内農家との連携など、様々なご意見をいただいております。

今後、頂いた意見を参考にしながら、今年度から実施しますリサイクルモデル事業において調査・研究してまいります。

事業者によるリサイクル活動の活性化 事業系資源物のリサイクルルートの確立 商店街を核とした資源化サークルの形成

積極的にリサイクル活動を実施している事業者との連携を図るべき

【提案内容・理由】

市内の生活協同組合など熱心に活動しているところと連携を図るべき
新聞は、新聞配達店の回収へ促すようはつきり広報すべき
蛍光管を店頭回収している店舗があるので調査し広報すべき
事業系の空き缶・空き瓶・ペットボトルなどの資源物がごみに混入しないよう、事業者指導を徹底すべき

回 答

事業系ごみの資源化の促進に向けましては、熱心に活動している事業者との連携が必要であると考えておりますが、事業者処理責任の原則もありますことから、連携方策等については今後慎重に検討してまいりたいと考えております。

また、事業系ごみの減量・リサイクル活動の構築に向け、地域の小規模事業者の団体が自主的に行うリサイクル事業の取組みに対して、その処理費用等の一部を補助する制度を設けており、その推進を今後図ってまいります。

(3) 資源にならないごみは適正に処理する

【環境負荷の低減に努めた適正処理】

埋立処分量の減量化

最終段階での減容でなく、排出時点で削減を図るべき

回 答

最終処分場の延命化のためには、まずごみの発生抑制を推進し、できるだけ埋立量を少なくすることが重要であると考えております。

また将来的には、焼却灰の減溶化などの施策につきましても検討してまいります。

【有害廃棄物・適正処理困難物への取組】

蛍光管の公的な回収ルートを整備すべき

回答

蛍光管の回収については、一部の都市において、有害廃棄物として分別収集しております。

本市においても、その必要性については認識しているところですが、相当な費用を要すること、その他プラスチック分別収集の開始など早期に取り組まなければならない課題があることから、慎重に検討してまいります。

製造者責任を果たすよう指導を徹底すべき

回答

有害廃棄物、適正処理困難物の対策については、製造段階における取組が最も有効であると考えております。製品の見直しについて、これまでも国や業界団体を通じて製造事業者等への要請を行ってまいりましたが、今後も積極的に行ってまいりたいと考えております。

【(仮称)リサイクルパークあさおの建設】

普及啓発施設の充実を図ってほしい。

回答

普及啓発施設については、今後、市民の皆様との意見交換を行い、その意向を踏まえまして、充実を図ってまいります。

(4) その他の取組

【都市の美観の保持】

不法投棄防止に向けた取組

不法投棄の対策を強化すべき

【提案内容・理由】

花や彫刻、マスコットなどで街を美化することが不法投棄の防止につながる。

回答

ご提案内容を参考にしながら、不法投棄の防止策の強化・充実を図ってまいります。

排出マナーの悪い集積所をターゲットとした徹底指導 戸別収集を検討すべき

【提案内容・理由】

現在のごみ集積所にある町内会等が所有するごみ箱を撤去し、蓋付きの名前入りバケツを使用する戸別収集を実施することにより、個人の責任感に訴えごみ減量に繋がると思う。

回 答

家庭系ごみの戸別収集については、市民自らがごみを管理し、清潔を保持する観点から、不法排出に対する有効な施策であると考えておりますが、市内全域で実施するとなると、狭隘道路への対応が必要であること、また収集効率が悪く、より多くの車両・人員が必要になるなどの問題があります。

以前、事業系ごみを市が収集しているときに、商店街のごみに対して、モデル実施をした経緯があり、また、一部ではありますが、排出マナーの悪い集積所について戸別収集を実施しております。

今後は、これらの不法排出場所も含め、ごみの散乱等が顕著な集積所など、改善を図る必要性が高い地域においては、周辺住民の意見を聞きながらごみ集積所の分散化や戸別収集等の実施を検討してまいります。

小物金属類の分別収集を再開すべき

【提案内容・理由】

資源となる小物金属は、収集制度変更後殆どごみとして排出されてしまっている。

回 答

小物金属類の現在の収集方法については、一部のごみ集積所に不適正に排出されている状況が見受けられ、集積所周辺の方々に大変な迷惑となっております。

これは現在の収集形態が従来の方と比べると、利便性が低く、また粗大ごみの受付センターへの連絡などわずらわしく手間のかかることなどから、市民の方々から協力を得にくい側面もあったものと考えています。

今後は、できるだけ早期に、収集方法等の見直しに向けて検討してまいります。

単身者の排出マナーを向上させるべき

【提案内容・理由】

不適正に出されたごみを収集作業員が持っていくことが問題

回 答

不適正に排出されたごみを長期間取り残すことについては、集積所近隣にお住まいの方々にとって大きな負担を強いることとなります。そのため、一定程度の期間ごみに警告書を貼るなどにより、排出者本人への周知を図っているところです。今後についても、このような手法を用いた指導が中心になるうかと思いますが、廃棄物減量指導員の方々と連携し、排出ルールの徹底に努めてまいります。

3 新たな視点と発想による施策展開

(1) 施策の評価手法の開発とフォローアップ

【施策の効果的分析手法の開発、調査研究の実施】

費用対効果について、市民に判り易い形で示すべき

回 答

計画にも示しておりますとおり、各事業について費用対効果を検証することは大変重要であると考えております。また、その検証結果については、市民の皆様に判りやすい形でお伝えしてまいります。

L C A手法を用いてコストを示し、評価すべき

回 答

L C A手法を用いた計画の策定については、廃棄物分野においてその手法が確立されていないことから、今回の計画策定での実施予定はありませんが、将来的には、L C A手法の導入の可能性について調査・研究してまいります。

【計画のフォローアップ】

施策の評価は大変重要なところなので、計画にもっと具体的な評価手法を記述するなど内容の充実を図るべき

回 答

施策の評価については、目標値に対する進捗状況、他都市との比較など、様々な手法がありますが、これらの内容等については、計画素案の見直しの際、もう少し詳細に記述してまいります。

(2) 費用対効果の分析

【収集体制の再構築】

収集回数の見直し

普通ごみ週4日収集を週3日へ変更すべき

回答

普通ごみの収集回数については、快適な市民生活の確保と地域環境の保全を目的として、現在、週4回実施しています。

しかしながら、本市が目指す循環型社会を構築する上では、新たに容器包装リサイクル法に基づく「その他プラスチック」などの分別収集が必要となりますことから、普通ごみの収集回数を1回減らすなど、現行体制の見直しを含めて検討をしているところです。

収集回数の減少は、戸別収集や休日での収集、夜間収集とセットで行うべき

回答

戸別収集については、市内全域で実施するとなると、狭隘道路への対応が必要なこと、また収集効率が悪く、より多くの車両・人員が必要になるなどの課題があります。また、夜間収集については、収集車両の騒音や作業の安全性の確保など、いくつかの課題を抱えております。

したがって、これらの課題について慎重に検討をしてみたいと考えております。

民間活力の導入

費用削減のため、資源物は事業者回収とすべき

回答

資源物の事業者回収、いわゆる資源物収集の民間委託化については、本市の現状を踏まえ、まずは現行体制の見直しにより、より効率的・効果的な体制へ再構築する必要があると考えております。

したがって、民間活力の導入については、こうした現行体制の見直しを行う中で、ライフラインとしての安定的な市民サービスの確保や中長期的なコスト負担など、委託化に伴う課題について検証を進める必要があると考えております。

ごみ収集の民間委託は反対

回答

ごみ処理事業における民間活力の導入については、現行体制の見直しを行う中で、ライフラインとしての安定的な市民サービスの確保や中長期的なコ

スト負担など、委託化に伴う課題について検証を進める必要があると考えております。

その他関連事項

行動計画の実施スケジュール

行動計画について、具体的なスケジュールを示すべき

回 答

スケジュールについては、計画の進行管理上必要であると考えておりますので、今後設定してまいります。

計画の周知

他都市の先進例を参考に見易さに工夫すべき

【提案内容・理由】

計画の見せ方を変えるだけで、市民の認知度も変わると思う。
「川崎らしさ」を感じさせてくれるような提案が必要

回 答

計画は、他都市の事例も参考にしながら、市民の皆様にはわかりやすく、そして「川崎らしさ」を感じることができるようなものを作成したいと考えております。

計画の実現

【提案内容・理由】

計画の推進にあたっては、市民をいかに巻き込んでいくかが大切
市民が身近な問題として自主的に取り組めるよう、市民参加の仕組みを整えることが必要

回 答

計画の実現に向けましては市民・事業者の協力が不可欠であると考えております。したがって市民・事業者の参加を促す取組を検討してまいります。

計画の名称

もう少し市民にとって親しみをもてる計画名称に変更すべき

回 答

市民の皆様が、この計画に親しみを持ちながら取り組んでいただけるよう、名称の変更について検討します。

計画の構成

廃棄物の計画だけでなく、環境全般を視野にいれた計画を策定することが必要（企画）

市民と市との役割分担を明確に記述すべき

回答

本市では環境全般について定めた環境基本計画を策定しており、その中で廃棄物処理対策の重要性について、市民・事業者の方々へ訴えかけてまいります。

また、市民と行政との役割分担の明確化については、計画素案の見直しの際、検討します。

地域特性を活かした処理方法の導入

廃棄物の種類により区ごとに特区的な分類をすべき

【提案内容・理由】

商業の集まる川崎区はビンやプラスチック、都市農業の宮前区や麻生区は生ごみ堆肥、オフィス街の中原区や高津区は紙ごみ中心としたものとしてはどうか。

回答

ご提案にありますように、地域性を踏まえたごみ処理システムの構築に向けた調査・研究を進めてまいります。

ごみ減量キャラクターの設置

新しいごみ減量のためのキャラクター設定すべき

【提案内容・理由】

「キレイくん」以外にキャラクターをつくり、もっと積極的に市民や他都市へアピールすべきである。

回答

現在環境局では、「キレイくん」というキャラクターを活用した普及広報を行っておりますが、長い間、市民の皆様から親しんでいただいている一方、「清掃」というイメージが強いことから変更してはどうかとのご意見を頂いております。

今後、これまでも親しんでいただいている「キレイくん」に加え、ごみの減量・リサイクルのイメージを持つキャラクターについて、市民の皆様とともに創ってまいりたいと考えております。